



安全風土の崩壊!!

あわや大惨事！さらに問題はその後も…



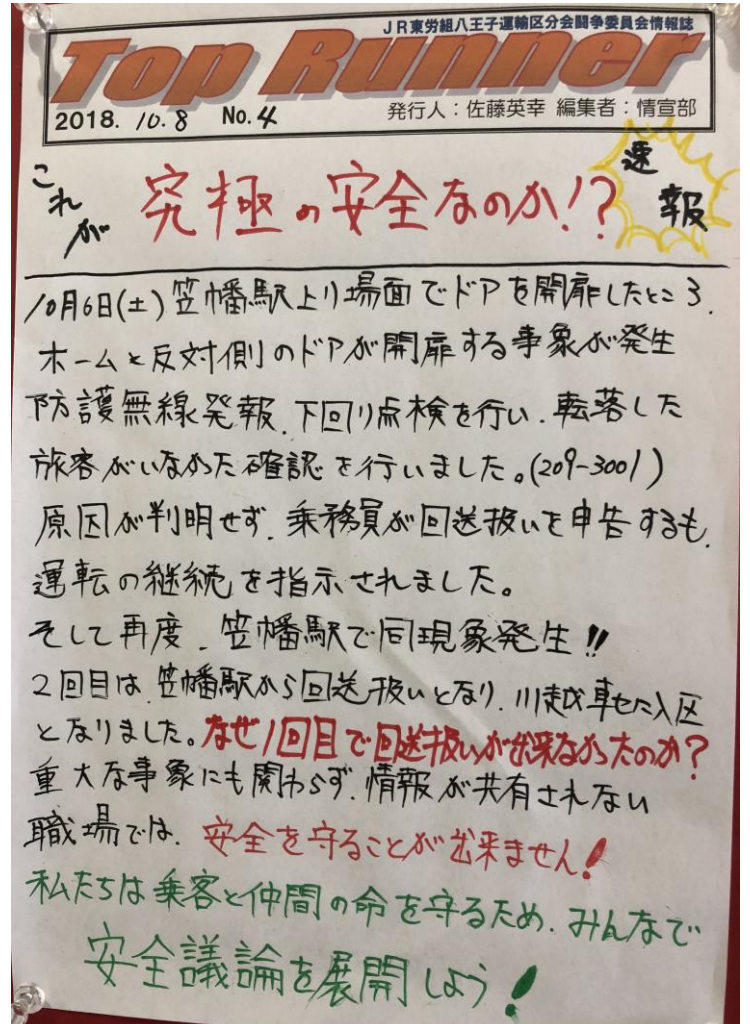
10月6日、川越線笠幡駅において、乗降扱い中にホームと反対側のドアが自然に開扉(半自動開扉)しました。原因が判明しなかったことから当該乗務員が回送列車とするよう要請しましたが、聞き入れられず運転継続されました。結果、再度笠幡駅で同事象が発生したことで回送→入区となりました。

◆さらに問題はその後も…◆

10月6日に発生した事象でありながら、何故か現場ではこうした事象が乗務員に一切広められませんでした。従来であればこうした事象を共有することで「自分が遭遇

したらどのように対応するか？」と考え、仲間と議論することで安全な鉄道を創造してきました。しかし「原因を調査しているから…」なる理由で事象そのものを公にしない会社の姿勢に多くの組合員が「意図的に隠そうとしているのでは？」「都合の悪い事でもあるのか？」と不信感を抱いています。

※会社掲示は10月9日に掲出



“反対側のドアが開扉する”という一歩間違えれば乗客の命を奪いかねない「絶滅を期する事象」にも関わらず、「究極の安全」を目指しているとは到底思えない会社の姿勢に対し、「安全第一」の職場風土を再確立するためにたたかおう!!